

第 21 回 IAPBT 浜松大会

栗形亜樹子チェンバロレクチャーコンサート

『音律と音楽 ～矛盾と妥協の美学～』

日時：2019年5月25日(土) 10:00~12:00 / 5月26日(日) 10:00~12:00

場所：コンgresセンター52会議室

(チェンバロは上鍵盤を平均律、下鍵盤を1/4SC中全音律に前もって調律しておきます)

- 1) 長3度純正中全音律と12等分平均律を実際の楽曲でその特徴を理解する。
 - ・中全音律と平均律の聴き比べ — 調によって実は違いが出ないという共通性
 - ・中全音律の特徴 — ウルフを挟む厳しい調、特徴的半音階、特別に広い(狭い)音程など作曲家が曲の効果に使用している例など
 - ・現代曲での使用例
- 2) 中全音律からキルンベルガー第3への調律替えデモンストレーション
- 3) キルンベルガー第3の特徴 — ウェル・テンペラメントとは何か?
 - ・本当に24調使えるのか? 24調出現する楽曲の試聴など
- 4) バッハの平均律曲集に適った音律とは? 楽譜に残された螺旋網様からの考察(B.リーマン音律などの紹介 — 音源使用可能)



撮影：林喜代種

栗形亜樹子 (チェンバロ奏者)

東京生まれ。東京藝術大学附属音楽高校、同大作曲科を経て DAAD 奨学生としてドイツ、デトモルト音楽院チェンバロ科へ留学。シュトゥットガルト芸術大学にて国家ソリスト資格取得。パリ、ブリュージュライプツィヒなどの国際チェンバロコンクールにて上位入賞。

90年代はパリへ移りセルジー・ポントワーズ国立地方音楽院等でチェンバロ、通奏低音などの指導にあたりながらヨーロッパ各地で演奏活動。17年間の欧州滞在後2000年に帰国。現在東京藝術大学非常勤講師、松本市音楽文化ホール講師。2017年より dream window TREE レーヴェルよりバッハ、フローベルガーのソロアルバムをハイレゾ世界配信、2018年8月全音楽譜出版よりクープラン『クラヴサン奏法』新訳を発行。